

2学期終盤 冬も元気な川西小

今週だけでも、1年生は**チューリップ**の球根植え、2年生は春花壇に**パンジー**の苗の植付け、3年生は古墳を探す町探検、4年生は外部講師を招いての**チョコレート**の学習、5年生は青木村にある**工場の見学**、6年生は**卒業記念個人写真撮影**… 本当にいろいろなことが学校にはあります。このほかにも、全校で取り組んだ**なかよし旬間**や**読書旬間**、**大縄跳びの練習会**、なかよし学級で取り組んだ**サツマイモ掘り**もありましたし、11月の前半には**川西小まつり**（児童会祭）もありました。2年生と5年生は火をおこして**ピザ**や**バウムクーヘン**をつくりました。どの活動もみんな楽しかったですね。そんな最近の生活から、いくつかのエピソードをご紹介します。



大なわとびに夢中です

全校で大なわとびの練習をした後、**何事にも興味をもって取り組める2年生**が大なわとびに夢中になってきました。朝、昇降口にいたところ、2年生二人が「先生ちょっと来て」と私を呼びます。行ってみると、桜の幹になわの片方を結び、一人が回して一人が跳んで遊ぼうとしたけれどうまくいかなかったようです。『**桜の代わりくらいにはなりますよ**』と心の中でつぶやき、なわを回すことにしました。

ご存知の方も多いことと思いますが、大なわとびは跳ぶ人と同じくらい回す人が重要です。（ターナーという名前もあります）低学年の子にはとても難しいものです。今日はちょっとしか遊ばせませんでした。またお手伝いできたらと思います。



リトミック

リトミックは、「楽しく音楽と触れ合いながら、基本的な音楽能力を伸ばすとともに、身体的、感覚的、知的にも、これから受けるあらゆる教育を十分に吸収し、それらを足がかりに大きく育つために、子どもたちが個々にもっている『潜在的な基礎能力』の発達を促す教育」です。今日は専門の先生に来ていただき、1～3年生がリトミックを体験しました。



先生の弾く**ピアノの曲想、速さ、リズムといったこと**を感じ取り、**からだの動きで表現して楽しみます**。私も1年生と一緒に楽しませてもらいました。途中、「おしりで歩く」動きが出てきました。手をつかずにおしりで歩くのです。『**ちゃんと着替えてから来なよ、オレ**』と心の中でつぶやきながら、1年生に負けずにおしりで歩きます。リズムに合わせて何度もジャンプする場面では、『**去年は1年生とくじらぐもに向かってもっと高くジャンプできたのになあ**』と体力不足を実感しながら取り組みました。大人って純粋に楽しめなくていけませんね。**子どもはすてき**です。

大人はみんな、家庭科の先生です

5年生が**エプロンづくり**をしています。昔と違ってまっさらな1枚の布から作るわけではなく、裁つところや折るところ、縫うところが分かるように線が印刷されていますが、それでも「服は買うもの」と思っているであろう子どもたちにとって、この学習は**他の教科にはない特別な魅力**を感じていることでしょう。

今日の5～6校時には布に仕付けをしたり、ミシンで縫ったりしているところを見せてもらいました。私も担任として家庭科を指導した経験があるので、様子を見ていて困っていそうな子がいると、つい声をかけたくくなります。ちょっとしたコツやお手伝いを素直に喜んでくれる子どもたちばかりでした。すると、「**この人はミシンを使えるのではないだろうか**」と考える女子が現れ、相談してくれるようになります。でもそのアドバイスに十分納得できないと、ちゃんと教科担任の先生のもとに戻っていきます。『**人を見る目が育っているなあ**』と妙に感心してしまいます。

授業時間が終わりました。子どもたちと一緒に家庭科室を出ます。男子の何人かから「校長先生って、家庭科の先生なの？」と声をかけられました。「そうじゃないけど、家庭科は教えたことがあるよ」「そうなんだ、校長先生、またね」と互いに手を振って別れました。

家庭科は家庭生活に必要な知識や技能、考え方を身につけることを通して学ぶ教科です。そういう意味では、大人は十分な家庭生活を送ってきているので、『**そうだよ。大人はみんな、家庭科の先生なんだよ**』と言えばよかったな…などと考える私でした。